

サクラの開花宣言と生物季節観測のお話

3/14 に東京でサクラ（ソメイヨシノ）の開花宣言がでましたね。開花宣言は「標本木」と呼ばれる「開花の基準となる木」に5～6輪の花が咲くと出されるそうです。（厳密な開花宣言の定義はちょっと違うようですが、興味のある人は調べてみてください。インターネットでは、すぐに見つかりました。）東京の標本木はティープロから近い、靖国神社にあるようです。今回は季節を感じるお話です。

サクラの開花だけでなく、チューリップの花やウメの花、モンシロチョウなど、さまざまな生物で春を感じることができます。あん Do の家の近くでは、ウメの花が終わりかけています。道端の生垣のまわりにはツクシも顔を出していますし、カラスノエンドウ（ヤハズエンドウ）の花も咲いています。



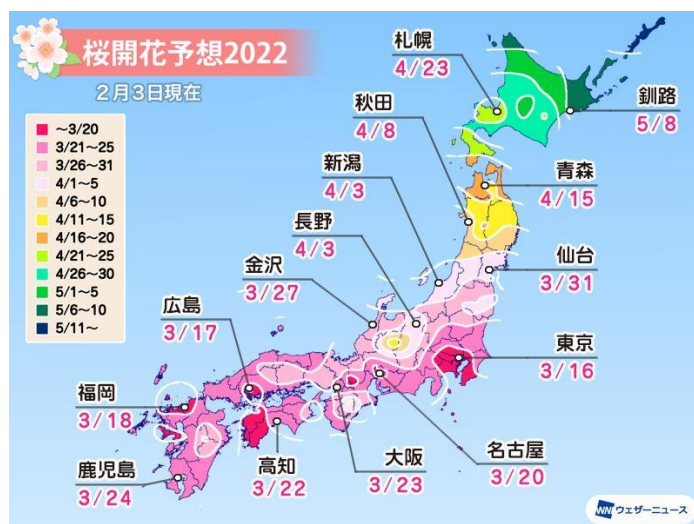
ツクシ (Wikipedia より)



カラスノエンドウ (Wikipedia より)

サクラの開花に代表される「季節ごとの動植物の活動」を観察することで気候変動の観測を行うことができる、という考えのもとづき、気象庁が観察する生物種を定め、特定の現象（開花・紅葉など）、行動（初飛来・初鳴きなど）について観測を行っているのが、生物季節観測です。

サクラの開花日が同じ地点を線で結んだものは通称「桜前線」と呼ばれています。桜前線ほどメジャーではないものの、ツバメの初飛来日が同じ地点を結んだ「ツバメ前線」、モミジ（イロハカエデ）の紅葉日が同じ地点を結んだ「モミジ前線」などもあります。どれも気象庁の正式な名称ではないのですが、「前線」という言葉の意味がわかればなんとなくイメージが伝わる良いネーミングだと思います。



ウェザーニュースによる桜前線の予想 (2022年のもの)

他にも、植物ではタンポポやアジサイ、ススキなど、動物ではトノサマガエル、ホタル、アブラゼミなどが観察種目に指定されています。みなさんは、これらの生き物からどのあたりの季節を想像しますか？

東京ではなかなか見られない生物もいますが、住みにくいであろう東京でがんばって生きている生き物に目を向けながら生活していけたら良いですね。

23/3/16 (そろそろ春の山菜が食べたい) あん Do